

HUMAN RIGHTS MESSAGE

じんけん 人権とは…

「人権」というと、どうしても、特別なこと、難しいこと、堅苦しいことといったイメージを思い浮かべがちです。

しかし、「人権」は私たち一人ひとりにとってかけがえのないとても大切なものであり、誰もが生まれながらにして持っている、誰からも侵されることのない、人として幸せに生きていくための当然の権利です。

また、日頃からの思いやりの心によって守られるものであり、だれもが心で理解し、感じることができるものではないでしょうか。

インターネット上での誹謗中傷の書き込み、学校でのいじめや体罰、子どもに対する虐待、性別および性的指向・性自認の違いや被差別部落出身という理由による差別、お年寄りの疎外、障害のある人、外国人、アイヌの人々、ハンセン病やHIV、新型コロナウイルスなどの感染症患者、刑を終えて出所した人に対する偏見、犯罪被害者とそのご家族への興味本位のうわさや中傷、拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害や、高齢者など配慮を必要とする方々の災害時における人権問題など、数多くの人権にかかわる問題が起きています。

私たちは、誰もがみな幸せに生きていきたいと思います。同時に、家族や友人などまわりの人々の幸せも願っています。すべての人々が幸せに生きていくために、お互いの人権や多様性を尊重し、「誰か」のことではなく、自分自身のこととして考え、行動しましょう。

世界人権宣言

(1948年12月10日第3回国際連合総会で採択)

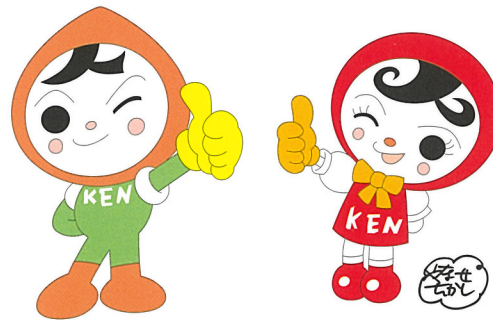
第1条 すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神を持って行動しなければならない。

新型コロナウイルス感染症に関する様々な人権侵害をなくそう

現在、新型コロナウイルス感染症に対する知識や理解の不足から、日常生活、職場、医療現場など社会生活の様々な場面で差別や偏見、いじめ、虐待などの人権問題が発生しています。

**相手の気持ちを考え、やさしさを忘れず、
みんなでこの困難を乗り越えていきましょう。**

誰もがお互いの人権を尊重し合うために、
「誰か」のことではなく自分自身のこととして考え、
行動しましょう。



人KENまもる君・人KENあゆみちゃん



石川県総務部総務課人権推進室

TEL:076-225-1235

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/soumu/index.html>

石川県人権啓発活動ネットワーク協議会



このリーフレットは再生紙を使用しています。

2023年 二十歳へ贈る人権メッセージ

「誰か」のこと
じゃない。

HUMAN RIGHTS MESSAGE

石川県

MESSAGE



多様性を認め合う 社会の実現に向けて

石川県知事
はせ 馳 ひろし 浩

新たに二十歳を迎えられた皆さんに、心からお祝いを申し上げます。

二十歳という年齢は、人生における大きな節目であり、周囲からは、大人としての自覚をこれまで以上に求められることとなるとともに、自分がこれからどのような大人になり、どのように生きていくかについても、しっかりと考えていく必要があります。

今、子どもに対する虐待、学校でのいじめや体罰、性的少数者(LGBTQ)の方々への偏見、新型コロナウイルス感染症患者やその家族の方々への差別など、人権をめぐる深刻な問題が後を絶ちません。さらに、インターネット上での差別や誹謗中傷の書き込みによる人権侵害についても、現在大きな問題となっています。

これから社会全体で、全ての方々が幸せを実感しながら発展を続けていくためには、誰もが自分らしく、いきいきと生活することができる社会を作り上げる必要があります。そのためには、私たち一人ひとりが多様性を認め合い、お互いに相手を思いやることがとても大切です。

皆さんは大人として、これから新たな時代を生きていく中で、様々な痛みや苦しみを背負うかもしれません。こうした中においても、困難なことにも積極果敢にチャレンジする勇気や的確な洞察力、行動力といった「生きる力」を発揮できるよう応援しています。

そして、様々な人権問題についても、「誰か」のことではなく、自分自身の問題であると受け止め、多様性を認め合う社会の実現に向けて行動してくれることを、心から期待しています。

二十歳の皆さん



思いやりと感謝を大切に

まつもと けいた
松本 慶太(津幡町)

「人権」は私達一人ひとりが生まれながらに持っている誰からも侵されることのない、人として生きていくために必要な権利です。

しかし、インターネット上での誹謗中傷、いじめや体罰、虐待、性差別、新型コロナウイルス感染者への差別などが問題になっていますが、私達自身が「人権」について知り、理解することによって減らしていくことができるのではないかと考えます。誰もがみな幸せに生きたい、生活したい、また、家族や友達・先輩や後輩など、まわりの方々の幸せを願って生きていると思います。

私は、今年4月から津幡町児童センターでボランティアを始めました。子ども達とのふれあいの中で、優しさや思いやりを感じながら活動しています。今こそ、一人ひとりが自分自身を振り返り、自分達にとっての当たり前は当たり前ではないこと、お互いに思いやりと感謝の気持ちを忘れずに過ごすことが大切なのではないでしょうか。



多様性のある社会に

あおき あやか
青木 綺香(中能登町)

この度、家族や学校の友人をはじめ多くの人に支えられながら「二十歳」という大きな節目を迎えることができました。

私は今、大学生として日々学業に励んでいます。2020年から始まった新型コロナウイルスの影響は、3年前よりは落ち着いたものの、未だに対面の授業よりもオンライン授業の方が多く、加えてマスクをとって外に出ることができない状況が続いています。しかし、この3年間で制限されたことが多かったからこそ、自分がいま置かれている環境や、まわりの人たちを大切にしていこうという思いが強くなりました。当たり前だったことが当たり前でできないことは全ての人自身が身をもって経験したと思います。だからこそ、1人1人が感謝の心、また他者への思いやりをもつ社会、すなわち多様性を育てていくべきだと思います。

MESSAGE



二十歳の皆様へ

ボッチャ選手
(株式会社ゴーゴーカレーグループ所属)

たなか けいこ
田中 恵子

二十歳を迎えられた皆さん、おめでとうございます。
私は、2021年に開催された東京パラリンピックで、ボッチャペアで銀メダルをとった田中恵子です。

2016年の時、日本選手権が石川県で行われた時、準優勝になりました。

そこで、4年後、パラリンピックに出たいという気持ちが強くなりました。

東京で開催されるので私が活躍して、少しでも多くの人に見て欲しいと思いながら、練習に励んでいました。

私は、手や足が不自由なので、ボールを持つ事も投げる事も出来ません。

その為、ランプ(勾配具)を使って、ランプオペレータ(介助者)に選手が指示をします。

表彰式では、選手とランプオペレータもメダルがもらえます。

パラリンピックの時、個人戦が先にあって、私は出場出来なかったのが、仲間を応援しながら、パラリンピックを自分なりに楽しもうと思っていました。早く、試合がしたいなと思いました。

ペアの試合のときも、楽しくて、ペアのチームのムードを明るくしていこうと思いました。

メンバーが交代になってからも、ベンチから声を出して明るさを保ち、皆で戦っていました。

私は、パラリンピックに出場するまでに時間はかかりましたが、普段の練習を見てくれているコーチに、メダルを取れたことが一番の恩返しだと思います。

二十歳の皆さんは、今から、長い人生なので、ゆっくり夢に向かって欲しいと思います。